

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
82	川崎市立稗原小学校	菅原 隆宏

学校教育目標	今年度の重点目標
豊かな心とたくましい体を持ち 主体的に判断し行動できる稗原の子 ○よく遊び、よく学ぶ子 ○認め合い、助け合う子 ○粘り強く、挑戦する子	I. 新しい社会を創り出す能力や態度の育成に取り組む II. 児童相互理解と人権尊重を大切にした豊かな心づくりに取り組む III. 現代諸課題、喫緊な課題に取り組む IV. 開かれた学校づくりに取り組む

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 「確かな学力」を育む教育活動	○分かる授業、楽しい授業のために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることで、学ぶ意欲を育て「確かな学力」を育む。・基礎基本の定着に向けた学習態勢の構築、GIGA端末活用の推進、校内研究の推進、専科、交換授業など学習形態を工夫した学びの向上、地域連携による基礎学力の向上、思考力や人間関係をつくる力を育てるための言語活動の充実、実習・実験、地域社会での体験活動、専門家との交流など、リアルな体験を重視等	・校内研究テーマ「思いを伝え、聞いて、深める国語」とし、「あたたかい聴き方」「やさしい話し方」シートを指標に、人とかかわり合いを大切に研究した。・GIGA端末のアプリを各学年の発達段階で適切に活用し、情報を収集・整理・比較・発信・伝達したりする力を育成する。・専科・交換授業等により、学級の垣根を超えた支援・指導につながった。・稗原小の研究の大テーマをつくり、どの教科でも、児童の資質能力の育成につながる研究の柱をつくる必要があると。・モジュール学習の指導計画作成を行う。	・児童の実態をアンケートや学力状況調査などから把握し、稗原小の研究のテーマを見直し、研究教科の国語だけでなく、どの教科でも、児童の資質能力の育成につながる学校の主題を検討する。・15分モジュールの年間指導計画を作成するとともに、子ども一人一人の特性や学習進度に応じた教材の提供ができるよう配慮する。専科や教科担任制推進加配、交換授業などを行い、「チーム学年」による児童への指導支援を図る。・GIGA端末の各学年における年間指導計画を作成し、学年ごとの一律の積み上げを行う。
2 「豊かな心」を育む教育活動	○社会で自立して生きていくための資質・能力や態度と共に共生・協働の精神育成を通して人と関わる力を育む。・効果測定を活かしたかわさき共生＊共育プログラムの効果的な活用(SOS教育)・支援教育コーディネーターを中心とした支援教育の推進・異学年交流の推進・年3回の学校生活アンケート実施による、個人の内面の把握や学級で起こっている諸問題の実態の早期発見等	・主体的にかかわり合うたてわり活動の在り方を構築してきた。児童の実態・計画の実際・実施状況・課題などを検討し、PDCAサイクルを通して、より良い活動となるよう更新してきた。・支援教育COを中心に、学校カウンセラーやSSW等連携し相談体制の充実を図った。かわさき共生＊共育等、内容を効果的に実践し、効果測定の結果を生かしながら、自分づくり、友だちづくり、仲間づくりに役立てることができた。・児童面談の実施方法の検討が課題となっている。	・年3回の学校生活アンケート実施による、個人の内面の把握や学級で起こっている諸問題の実態の早期発見等を継続する。4月に個人面談を行い、児童の特性を保護者から伺い、指導支援に役立てる。・支援教育COを中心に、学校カウンセラーやSSW、児相やデイサービス等と連携し指導の方向性の統一と相談体制の拡充を図り、多方面からの児童や保護者の理解に努める。縦割り活動の継続により、能動的・自律的な判断や行動を育成する。
3 「健やかな体」を育む教育活動	○将来に向けた社会的自立に必要な能力・態度を培うと共に、体力向上や食育の充実などを通して育む。・体力向上に関わる取組の推進・健康安全指導と学習等における安全配慮対応の充実・精神的な自立に向けての指導・支援、食育(望ましい食習慣)の推進・みんなの校庭プロジェクトの推進等	・保健教育と食育を通して、健康や安全についての関心・意欲・態度を高めた。・各教科における教材・教具及び場の設定等に関する安全配慮について、検討し事故防止に努めた。・スポーツのまちな重点施策のキラキラタイムの充実とみんなの校庭プロジェクトの実施、実業団・NPO等の体育授業における連携などにより、スポーツを楽しむ子を育成することができた。・今後も継続とする。	・各教科における教材・教具及び場の設定等に関する安全配慮について、検討し事故防止に努めるとともに、専門家による職員研修を行い、けがや事故の事例を検証し日々の指導に役立てるようにする。・キラキラタイムの充実とみんなの校庭プロジェクトの継続により、運動を楽しむ子の育成を図る。教科担任制推進や交換授業により、体育に関する専門的な指導を受けられるように配慮する。
4 現代課題・喫緊な課題に取り組む教育活動	○現代諸課題や喫緊な課題について、先を見通した指導計画や教育環境整備を行い、学校の教育力を高める。・危機管理に関する見識を深め、児童の安全管理や健康管理に努める。・学習状況調査等の分析をもとに、児童につけたい資質能力を客観的にとらえ、改善に取り組む。・創立40周年に関わる取組の創造・教職員の資質や能力の向上に向けた研修・研究の充実を図ると共に、働き方改革に取り組む。	・校舎内外における安全な過ごし方の定着を図り、けがや事故を未然に防ぐよう心掛けた。・創立40周年・市制100周年「学校e-ね。サミット」事業の取組を創造し、ふるさと川崎・稗原への愛着をもつことができた。・学習評価の事例研修、単元づくりの中での3評価の位置づけを考えることが課題。・学力状況調査結果から児童の課題を見出し、指導の方向性と手だてを構築し、来年度の児童像に反映させる。	・研究の重点を振り所として、校内の常任委員が授業公開を行い、各学年の目指す授業モデルの確立を図る。仕事の進め方働き方改革においては、月曜日を5校時、水曜日をB時程とし、水曜日の小教研出張日には、全員が参加し、研修と研鑽を積み、早く帰宅するよう促す。月曜日は、14時05分までの授業とし、自己研修や教材研究の時間を確保する。・創立40周年に関わる取組の創造を行い、児童の主体性のもと保護者や地域に表現する。
5 開かれた学校づくりに取り組む教育活動	保護者や地域の方々や創意工夫して子どもたちの成長を支えていく持続可能な協働体制づくりを通して地域の中で協力連携して育む。・学校運営協議会、学校説明会、懇談会等の充実を目指したアンケートの活用・地域諸団体との連携強化と交流活動の推進・学校ホームページの定期的な更新とミマモルメによる情報伝達・学習支援「ひえばら」の新設等	・各学年、地域素材を活用した学習を行い、地域とのつながりを生かした取組を進めた。・学校運営協議会を設置(年2回)し、委員から学校運営、授業の様子、地域の様子など、率直な意見を頂いた。地域行事も増え、子どもの参加も積極的であった。・学習支援「ひえばら」を新設し、地域教育会議委員の方々が、1か月のスケジュールを調整して、2年生に算数の補助指導を行っていただき、基礎学力の伸長につながった。	・学校ホームページの定期的な更新とミマモルメによる情報伝達を継続する。・学習支援「ひえばら」を継続する。地域教育会議委員の方のスケジュールを把握し、低学年クラスの入り込み学習を行い、基礎学力の伸長を図る。・学校評価システム(児童、保護者アンケート、自己評価の振り返り等)について、設問の見直しを図った。分析結果を基に、経年変化を探り、授業改善や学級の風土づくりに活用していく。

学校関係者の評価 (学校運営協議会のアンケートより抜粋)	学校運営のまとめ
【学習指導】○子供たちに対して、とても丁寧に関わっている。○子供たちが理解しているか確認しながら授業を進めている。○子ども同士のコミュニケーションが活発に行われている。【授業態度】○手を挙げやすい雰囲気ができている。○集中して授業を行っていて、他に気遣いができるクラスもあるが、やや落ち着かない児童のいるクラスもあった。○授業を楽しんでいる様子が印象的だった。○クラスによって、温度差があると感じた。【教室環境】○整理整頓されている。作品がきれいに飾られている。○掲示が工夫され、明るい環境であった。○机の並びがクラスごとに工夫されていた。【全体的感想】GIGAをうまく取り入れている授業が多かった。○学校経営の詳しい内容を知ることが出来て有意義だった。○高学年クラスの児童の目標に対する振り返りをGIGA端末のプレゼンで表現され素晴らしいと思った。	○主体的・対話的で深い学びを授業改善の視点として、校内研究テーマ「思いを伝え、聞いて、深める国語」の授業研究に取り組んだ。児童の話すこと・聴くことの能力の伸長を目指し、「あたたかい聴き方」「やさしい話し方」シートを指標として、各学年の児童の発達に応じたステップを設け、話すこと・聴くことを積み上げている。学習指導要領と本校児童の実態を鑑みて、各ステップの見直しを図り、児童のよりよい目標及び振り返りの視点としていく。○児童支援COを中心に、教育的ニーズのある児童に対応するため、教育委員会・地域支援センター・SSW・巡回カウンセラー・児相・療育センター、わかばプラザ・デイサービス等と連携する指導支援体制を整えてきた。ケースによって実効性・機動性・対応の柔軟性を考慮し、ケース会議チームを編成し、話し合いを設け、指導支援の方向性を同一にしていた。継続して行っていく。さらに、支援教育の視点を踏まえた個に応じた児童指導の推進を図っていく。○教員の働き方・仕事の進め方改革では、専科教員・教科担任制などの加配、学年内・学年間での交換授業、非常勤講師・教務・CO・管理職による教科指導など、担任一人で受け持つ教科・領域の数を減らしながら、自分が受け持つ教科・領域の教材研究が十分にできるよう配慮していく。